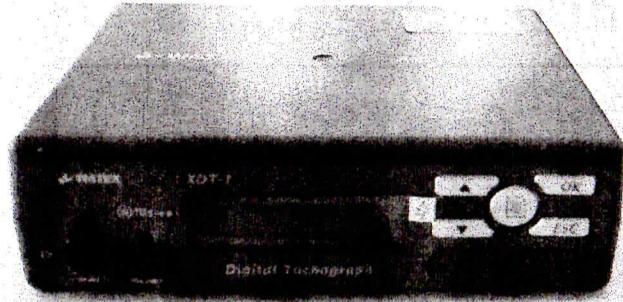


「デジタルタコ」低価格で

装着車拡大の商機狙う

ワーテックスが開発



ワーテックスが開発した安価なデジタルタコグラフ

以降は既存車両にも適用される。
顧客から低価格商品を求める声があり、同社は需要が高まると判断。1年ほど前から約1千万円を投じて開発した。同社によると従来品は10万円以上が多いが、同社は5万5千円(税別)に設定し、2月に法人向けに発売した。
今後は動画を記録するドライブレコーダーや、アルコールチェックと接続できるように改良し、安全運転管理やエコドライブを推進する事業所の需要を

自動車関連機器製造のワーテックス(太田市強戸町、安俊典社長)は、走行状態を自動で記録する「デジタルタコグラフ」(通称デジタルタコ)を開発した。機能を絞り込み、他社製品の半額程度の5万円台に価格設定した。国土交通省の規則改正で装着義務車両の範囲が拡大し、運送業者の負担が増える中、低価格を売りに年間1万台の販売を目指す。

商品名は「XDT-1」。走行の時間と距離、速度を計測して、データとして保存する。紙に印刷もできる。国土省の貨物車運送事業輸送安全規則が改正、4月1日に施行され、運行記録計の装着

義務範囲が拡大した。車両総重量と最大積載量が各1ト引き下げられて、総重量7ト以上、積載量4ト以上の事業用自動車に義務付けられた。ことし4月以降に購入する新車だけでなく、2017年4月

取り込む。
同社は1998年設立で、資本金は6500万円。東京と大阪に営業所がある。